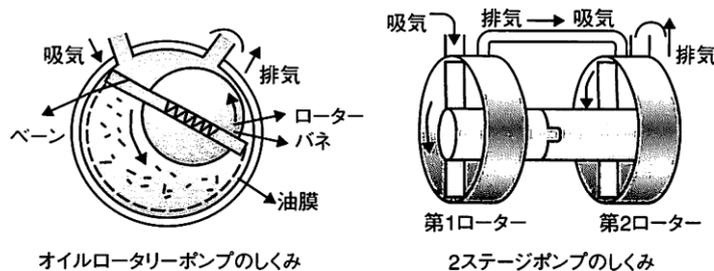


冬期における油回転式真空ポンプの起動特性について

油回転式真空ポンプは高真空を得られる様、ポンプ部内部のベーン(羽根)とシリンダー内壁との隙間が殆ど無く、しかも、真空ポンプオイルによる油膜でさらに気密度を高めていますので、モーター起動時は負荷が掛かりやすくなります。

特に、冬期での低温雰囲気温度(約 7℃以下)でのご使用は、ポンプ内部のオイルが硬化している事によって、さらに負荷が掛かり、モーターの起動を妨げ、モーター保護の為にサーマルカットスイッチの作動や、回転ムラ等が発生することがあります。



尚、低温時状態での御使用時の処方としましては、下記に示す通りとなります。

- ①ドライヤーなどで真空ポンプ(特にヘッド部分)を暖めるか、未然に真空ポンプを暖かい場所(15℃以上)で保管。
- ②チャージホース等は接続せず、真空ポンプのみを大気解放の状態での起動(暖機運転の実施)。

以上